みやこ町歴史民俗博物館

博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.160

令和2年3月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL0930-33-4666
FAX0930-33-4667

◆博物館NEWS

博物館企画展「逸木コレクション 刃(yaiba)～刀剣の美」

当館では、令和2年3月20日（金・春分の日）から博物館企画展「逸木コレクション刃（yaiba）～刀剣の美」展を開催します。

この企画展は、みやこ町勝山松田出身の故 逸木俊司氏が、平成18年度以降、当館に寄贈してくださった書画など多数の貴重な資料の中から、氏のコレクションを代表する「刀剣」を中心に展示するものです。

昨今の「刀剣ブーム」の中、これまで骨董の収集家等、限られた人々のみが知るといったイメージの強い刀剣の世界を、展示や関連事業を通して老若男女、町の内外を問わず、多くの人々にその美しさや、魅力を広く知っていただくことを目的として開催します。

開催期間中は、みやこ町の刀剣の歴史について当館学芸員による講演会やギャラリートークをはじめ、真剣を用いた居合道の迫力ある演武等を開催します。その美しさを通して「美術品」としての日本刀の世界をお楽しみください。

■会期
令和2年3月20日(金・春分の日)～令和2年5月17日(日)

■場所
みやこ町歴史民俗博物館展示室及び企画展示室兼研修室

■観覧料
常設展の観覧料でご覧いただけます

企画展関連事業（予定）

（電話による事前申込みが必要です）

（1）展示関連講演会
「刀剣の歴史と美～みやこ町の資料を中心として」
講師　井上信隆（当館学芸員）
日時　4月26日（日）11時00分～
場所　みやこ町歴史民俗博物館

（2）「居合道の演武」
「抜刀術の演武～古流 関口流」
＊町内を拠点に活動を行う関口流 光剣友会の皆様による、真剣を用いた迫力ある居合道の演武
日時　4月26日（日）13時30分～

◆講座・教室・催し物ガイド

3月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
3月7日（土）9時30分～
【古典かな講座】
3月22日（日）9時30分～
【古文書講座】
3月28日（土）13時30分～
【みやこ学講座】※現地見学予定／詳細別途
3月29日（日）9時～
※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

博物館で「楽習」始めませんか？

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館まで気軽にお問合せください！

○博物館友の会
バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅に参加できます。

○文化遺産ボランティア体験講座
町の宝をガイド&ガードするスタッフを募集・養成する講座です。今からでも町外からでも大丈夫！

▲各員の個性が輝くボランティアによる「展示ガイド」

1・2月の業務日誌から

1月26日（日）、永沼家住宅で文化財防火点検式が行われました。首里城はじめ貴重な文化遺産の火災が続いており、一層の防火意識を高めようと、参加された皆さんは試験操作も真剣に行っていました。
なお、この日は博物館でも防災訓練を行いました。

2月6日（木）豊津小学校3年生の児童30名が「昔の道具」の学習で博物館を訪れました。ゲームやスマホのない時代の生活に驚いた様子でしたが、災害時など、電気、ガスが断たれた際は、昔の道具が活用できることも学ぶことができました。

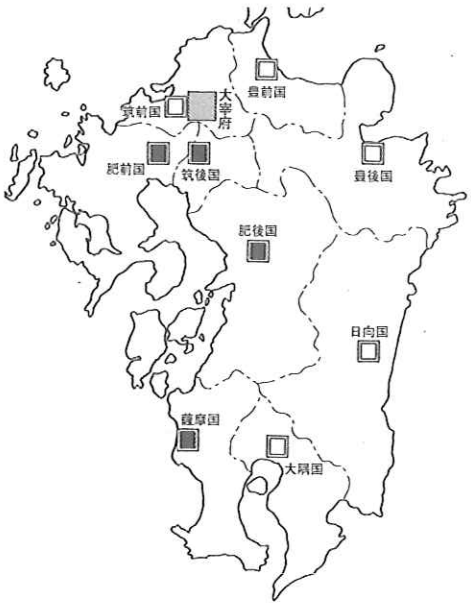
▲住宅備え付けのミニホースを使っての初期消火訓練

▲昔の道具を見て、現在の生活の有難さがわかりました

みやこの歴史発見伝 123
令和とその時代 ④
―「駅伝」の起源と古代官道―

「駅伝」のルーツは奈良時代？

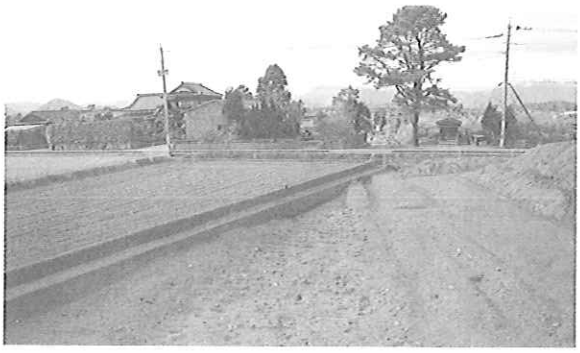
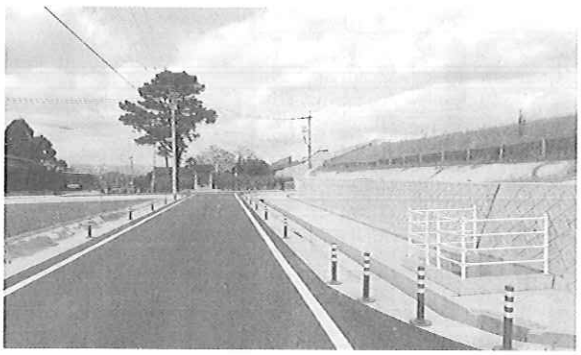
年末の「高校駅伝」や正月の「箱根駅伝」など、年末年始の風物詩のひとつとして親しまれている「駅伝」ですが、この名称のルーツもまた「令和」の歌が詠まれた奈良時代に行われた情報伝達システムに起源をもつという説がみられます。今回はこの情報伝達の舞台となった古代の道路網についてご紹介いたします。



▲古代の国名と国庁所在地（提供:九州歴史資料館）

今から1300年ほど前、九州は豊前、豊後、筑前、筑後、肥前、肥後、薩摩、大隅、日向の九つの国に分かれており、一説に、これが「九州」の名前の由来になったともいわれています。「豊前の国」は現在の北九州市から大分県宇佐市、西は田川郡を含む行政区に該当します。この国の国庁（現在の都道府県庁）にあたる施設が置かれた都市が、現在のみやこ町で、国作にある「豊前国府跡」はこの国庁の跡とみられています。国府跡から700m南西には聖武天皇の命によって建てられた国分寺の跡がみられるなど、当時の豊津は、北部九州でも非常に重要な拠点都市であったことがうかがえます。

奈良時代になって中央集権の体制が強固になると、政治的中心都市と地方都市を結びつける動脈として「官道」という道路が整備されます。主として情報伝達を目的としたものですが、有事の際に備え軍事目的としての側面も併せもつものでした。当時の官道の最大幅は現在の4車線道路に匹敵する12mを測り、国内の総延長は6300kmに達したとみられます。なお現在、この当時の国の範囲にみられる高速道路の総延長が約6500kmであることを考えると、約1300年前には現在の高速道路網に匹敵する道路が整備されていたことになります。また官道は「道路」としての機能と併せて、膨大な人員を駆使して作られた「国の力をアピールするためのシンボル」という側面も併せもち、その視覚的効果は絶大なものでした。現在はインターネット等で情報を瞬時に世界各地まで配信することができますが、奈良時代は目的地に向かって官道を馬を高速で走らせ直接、情報の伝達を行いました。そのため疲労した馬を交換するなどの休憩所「駅家」が約16km毎に設置されました。この伝達方法を「駅制」と呼び、この他、京から特命任務を担った使者を送迎する「伝馬制」があり、いずれも中継拠点から次の拠点まで情報（襷）をつなぐスタイルが似ていることから「駅・伝」の名がついたといわれています。豊前の国、特に国府が置かれたみやこ町は京から瀬戸内海を通って、九州の政治の中心地である大宰府へ向かう際の重要な交通の要であることから、大宰府に向かう最短ルートの官道も設けられました。「令和」の典拠となった歌は今から1290年前に大宰府で詠まれたものです。作者の大伴旅人は京から瀬戸内を通って大宰府に赴任したとみられていますが、その際には、現在のみやこ町にある官道を通って大宰府に向かったものと推察されています。



▲検出された古代の高速道路（官道:左）とその後完成した現在の高速道路（右）（官道の写真提供:九州歴史資料館）

東九州自動車道の建設工事に先立って行われた発掘調査では、現在の豊津インターチェンジ付近でこの時代の道路跡が検出されました。この事例から、みやこ町は古代と最新の「高速道路」が共存する町ということが分かります。約1300年の時を隔ててもなお、同じ場所に高速道路を造設するという傾向はとても興味深い事例といえます。

（井上信隆）